

米欧回覧

第32号
発行
米欧回覧の会
編集
メディア部会

日米交流百五十年記念シンポジウムを開催!

ドナルド・キーン氏と松本健一氏を招いて



ドナルド・キーン氏

日米交流百五十年の歴史はまさにアングロサクソン文明のグローバリゼーションに日本がいかに対応してきたか、またそのアイデンティティをいかに保守するかの格闘の歴史でもあったと考えられる。また、太平洋戦争後はグローバリゼーションの主役はアメリカに移り、さらに冷戦終結後とくに「九・一一」以降はその傾向がさらに顕著になり、まさに「アメリカングローバリゼーション」といっていい状況にある。



松本健一氏

ドナルド・キーン氏および昨年の七月全体例会の講演(ニュース第二十八号に要旨掲載)が好評だった松本健一氏の日米の碩学を迎えて、この問題を共に考えたい。

参加者のみなさんとの意見交換の時間もたつぷりとする予定であり、多勢のご参加をお待ちしている。

*日時:十月二十五日(土) 十三時~十六時三十分

*場所:日本プレスセンター十階ホール(会場は変更される可能性あり。その場合は追って案内します)

*会費:二千円



ビデオ版
「岩倉使節の米欧回覧」

全体例会は十一月八日に開催

NPO化問題を考え、
ビデオを見る会

当初、十月二十五日を全体例会日と考えていたが、それを独立したシンポジウムにすることにになり、全体例会は十一月八日に国際文化会館で開催することになった。ご承知のように、当会でもNPO化問題が俎上にのつてきており、会員相互で率直な意見交換をしたい。(三頁および四、五頁参照)

またかねてより進めていたスライド「岩倉使節の米欧回覧」のビデオ化(一巻三十分、三巻九十分)が完成したので、それを三巻まとめて鑑賞する機会をつくり、今後の活用方法についても共に考えたい。「原画」となるスライドより画面が数段充実し鮮明になった。まるで別物のような出来上がり。ビデオを是非ご覧ください。(七頁に関連記事)

高峰讓吉はタカジャスターゼやアドレナリンの開発者としてつとに有名だが、事業家として、外交家として、また社会活動家として、実に八面六臂の大活躍をしたスケールの大きな国際人であったことは意外に知られていない。

また、金子堅太郎は、明治憲法の制定にかかわり伊藤博文を助け、農商務、司法大臣などを歴任した政治家として有名だが、日露戦争時、

伊藤の特使としてロシアを相手に熾烈な情報戦で獅子奮迅の活躍をした人物であることも意外に知られていない。

一人が活躍したのは、ちょうど百年前、舞台はまさに世界都市になりつつあったニューヨークであった。

ニューヨークの「堂々たる日本人」 高峰讓吉と金子堅太郎

泉 三郎

の研究所を設立し、タカジャスターゼやアドレナリンという二大新薬の開発に成功するのだ。これにより、高峰は一躍世界的に脚光を浴び、巨万の富を築くことになる。

金子堅太郎は、明治四年岩倉使節団に随行して米國に留学し、ハーバードで法律学を収めて帰国するや憲法調査の仕事につくが、日露戦争の開戦に際しては伊藤博文の特使として米國にわたり、セオドア・ルーズベルト大統領との人脈を生かし、ロシアの巧妙な宣伝戦略に対し日本の立場を懸命に説き、米國の対日世論を好転させることに多大の貢献をした。そしてそれを蔭で支えたのが、当時すでに揺るぎない名聲と人脈を築いていた高峰だったのである。

そして高峰は一九〇五年、NY日本倶楽部の創立者となり、金子は一九一七年日米協会の初代会長になった。いずれも「無冠の大使」といわれ、日米交流百五十年史の中でも、光輝く、忘れてならぬ存在なのである。

高峯は、化学者として若くして燐鉱石に目を付け渋沢栄一や益田孝の後援を得て人造肥料会社を興したが、さらには新工夫の発酵技術を生かすべく一八九〇年に米國に移住する。そしていくたの挫折を経ながらも、一八九六年にNYに進出して自ら

第29回 全体例会

二〇〇三年七月十二日(土)
中村政則先生の講演

「近代日本の三つの岐路」を巡って熱論

第二十九回全体例会は、七月十二日(土)一時から一橋の学術センターで行われた。まず泉代表から、設立八年目を迎えた当会の拡大している事業や運営の現状紹介、さらに当会が十周年に向けてさらに事業を充実させるためにはNPO法人化を前向きに議論する「岐路」にあるとの挨拶があった。



講師の中村政則・神奈川大学教授

次いで、半澤健市氏の司会で、「近代日本の三つの岐路」と題した神奈川大学教授・一橋大学名誉教授の中村政則先生の講演の部に移った。中村先生は明治維新から大正デモクラシー、そして戦後日本に至る百五十年を九十

分で総括。そこからブンブンミーティング、そして二次会とホットなディスカッションが続ぎ、中締めは七時半を過ぎていた。一時のスタートかなんかと六時間半の長時間となったが、中村先生を含む者の有志は、それでも足りず如水会館に場所を替えて論議を続けた。

■ 明治維新

第一は明治維新だが、その本質は何かについて色々な見方

■ 歴史には岐路がある

それは歴史の行方が決まる「ターニング・ポイント」ともいふべき事象、時期、をいう。日本近代を回顧して私は明治維新、大正デモクラシー、戦後日本がその岐路だったと考える。

中村教授講演要約

七月全体例会における中村政則神奈川大学教授の講演「近代日本、三つの岐路・明治維新、大正デモクラシー、戦後日本」の要旨は次の通り。

がある。マルクス派歴史学では講座派が天皇制絶対主義の成立ととらえ労働派は後進国型のブルジョア革命と考えた。近代史家で駐日アメリカ大使でもあったE・ライシャワーらの近代化論者は明治維新を近代化の成功ととらえアジアのモデルと考えた。近代経済学の数量経済史家は統計的手法を駆使して維新期の江戸時代との連続性を強調している。

■ 大正デモクラシー

「薄命のデモクラシー」に終わった。それは国内的、国際的の要因が影響した。国内的には天皇制の存在が政治学者吉野作造の民本主義は天皇制の枠内での民主主義であった。民主主義の定義を、*The Government of the people (主権の所在)、by the people (参加)、for the people (目的)*とすれば、吉野の民本主義は主権の所在を欠いたいわばアルコール抜き酒のようなものだった。

講座派の方法を基礎にしていた私は、海外の学会動向に触れるにつれ、座標軸を変える必要を感じた。そして市民革命と産業革命の達成状況を指標として世界諸国の近代化を比較した。論文「明治維新の世界史的位位置—イタリヤ、ロシア、日本の比較史」では、十九世紀半ばの世界を、革命を双方とも達成した先進国、市民革命は挫折したが産業革命を達成した中進国(日本はここに入る)、双方とも達成できず植民地になった後進国、の三つに分類した。第二グループの中進国は一面で先進国に従属し他面で帝国主義国として後進国を支配した。日本にとって日清、日露両戦争のどちらが重要であったか。通説は日露だが私は日清戦争説をとる。講座派の山田盛太郎は「日清戦争で勝利して伊藤博文は初めて明治維新は成功であったと自信をもったのでは

ないですか」といつていた。まさしく明治維新の課題(民族独立と国家統一)は、日清戦争に勝って決着がついたのだと思。作家司馬遼太郎は「坂の上の雲」で日露戦争勝利後、日本は坂を転げ落ちたといっているが果たしてそうだろうか。ここで大正デモクラシーの評価が重要となる。



初代から終戦時まで四十二人の総理大臣中、政党党首で衆議院選挙に立候補し当選した者は原敬、浜口雄幸、犬養毅の三人に過ぎないことは大正デモクラシーの性格を象徴する。国際的には、経済人類学者カール・ポラニーが『大転換』で書いたように十九世紀システムの特徴は、金本位制、国際政治のバランス・オブ・パワー、自己調整的市場経済、自由主義国家であった。それが第一次大戦、ロシア革命、世界恐慌などを原因に崩壊した。大正デモクラシーの崩壊もそういう世界的過程の一環である。

■戦後日本

第三の岐路となったのは戦後日本のありようである。まず戦後日本をどう区分するか自体が大きな問題である。私が監訳した『歴史としての戦後日本』で編著者の米歴史家アンドルー・ゴードンは、

- ①「戦争直後としての戦後」(一九四五～一九五二)
- ②「高度成長期としての戦後」(一九五五～一九七三)
- ③「戦後の終焉」(一九七三～一九九〇)
- ④「20世紀システムの終焉」



恒例のブンブンミーティング

(一九九〇～二十一世紀)という区分をしている。これも一つの有力な区分である。戦後の岐路について私は一つの仮説を提示したい。戦前の「くにかたち」を決めたのは天皇制だが、戦後の「くにかたち」を決めたのは「安保体制と日本国憲法体制」である。「くにかたち」は、政治体制のシステムと「もの

考え方(精神構造)」を指す。戦後最大の岐路は全面講和か単独講和かの講和論争であり、その帰結としてのサンフランシスコ講和条約と日米安保条約。別の表現をすれば三つの選択肢があったといえる。

- ①吉田茂の軽武装・経済中心路線
- ②社会党系の全面講和・非武装中立、アジアとの連帯路線
- ③鳩山一郎・岸信介の自主外交、憲法改正路線

①が現実的かつ実際にとられた道であった。一九六〇年安保で③路線は挫折したから①が保守本流になった。②は一九五〇代までは「平和と民主主義」勢力をリードしたが一九八〇年代から退潮へ向かった。一方で①の路線の払った代償も大きかった。軍事権と外交権をアメリカに奪われて対米従属の構造が決まった。対米輸出依存度の高い経済構造をみてドイツのシュミット首相は「だから日本はアメリカにか友人ができないのだ」といつたことがある。結局、軍事国家でもなく福祉国家でもない企業国家が出現した。米歴史家キャロル・グラックは「長い戦後」が終わっていないという。では「戦後」はいつ終わるのだろうか。



二次会でも熱心な議論を継続

湾岸戦争とイラク戦争は、「終わった戦後」と終わらない戦後「の二重構造が現代日本を規定している」(中村)という現実を日本人に認識させた。そして戦後をどう終わらせるか、という難題を突きつけている。

■「戦後の終焉」に関する私のイメージは

- ①アメリカに対しては、従属構造からの脱却、安保の見直し(たとえば安保条約を廃棄して日米友好条約を締結する)、国連での日本の「敵国条項」の撤廃、常任理事国入り(拒否権はなくてもよい)
- ②アジアに対しては、「過去の清算」(戦争責任)、歴史認識問題↓アジア共同体の構築

といったものである。

国際ジャーナリスト松本重治は「負け取った民主主義、戦争で負けたために実現した民主主義、ここに日本現代史の悲しさがある」といった。憲法改正の是非という戦後

◆泉代表の挨拶から
設立十周年に向けて、
会の充実とNPO化問題

諸活動が盛んになります。つれ、事務局の充実や財政の強化の問題が浮上してまいりました。そこで、このところ幹事会でそのことを検討し、だいたい次のような方向で対処していくことで決定していますので、そのことをご報告してご理解をいただきたいと思ひます。

日本最大のタブーをどう解放し解決するか、それがこれからの最大の課題となる。
(文) 半澤健市会員

うことになりました。

それから、事務局の充実、財務の充実、新事業の展開などを考えると、この際NPO化すべきだという意見があり、これについてメリット、デメリットを検討しています。ざっくりばらんに申し上げると、財団、基金からもNPOにすれば援助しやすいという声もあります。調べてみますと、本会は既に活動内容、実績からしてその資格も能力も十分備えており、自然体でそれに移行できるとの感触を得ております。

この問題はいずれ特別例会を開いて会員の皆さんにもご説明し、ご理解を得たいと考えておりますが、今日は幹事会での現況をご報告しておきます。

二〇〇五年には設立十周年を迎えますので、それを目標にいろいろな事業や会の再組織、パワーアップも図りたいと考えており、そろそろ準備に入ろうということですので、皆さんから面白いアイデアがあったら是非出していただきたいと思います。

NPO化

●十一月全体例会に向けた提起 「米欧回覧の会」の 「特定非営利活動法人」化について

「米欧回覧の会」は発足以来満七年を経過し、多面的な活動により数々の実績を積み上げてきた。これはひとえに二百名に及ぶ多彩な会員の熱意と努力によるものであるが、他方、特定の財団や団体、会員による特別寄付など、会費収入以外の財政的支援がこれを支えてきた事実もまた銘記せねばならない。

会の現在の年間収支状況を見ると、会費収入が一人五千円、二百名で約百万円、これに対して会の運営経費がおよそ百五十万円で、経常的に約五十万円が不足する状態であり、これを上記の特別寄付により賄っている。これに加えて会の活性化とともに急速に増加している事務経費、ことにイズミオフィスにお願いしている人的および経費的負担はもはや限界に達している状況にある。

本会は、今後その活動領域を更に拡大発展させる可能性、潜在力を十分に秘めており、会の一層の活性化も期待される。また二〇〇五年に迎える設立十周年の記念行事のことも考え合わせると、この際、会の体制の充実、とりわけ収入基盤の充

実、安定化を図る必要が生じている。また、諸活動を活性化するためには事務局の充実も必要であり、イズミオフィスが八王子という地理的な条件もあり、都心で会員が利用しやすい場所に事務所がほしいとの要望も少なくない。

以上のようなことから、また当会の社会的認知度、信用度を上げるためにも会の「特定非営利活動法人」(略称NPO、以下同じ)化が必要となってきた。

？なぜNPO化なのか

以下にQ&Aの形で当会におけるNPO化についてその概要・問題点を整理してみる。

Q 今なぜNPO化しなければならぬのですか

A 上述の現状に加え、来年度の事業について、諸団体、財団からの援助を受けるに際し、先方より本会のNPO化が望ましいとの要請が出されており、年内にも法人設立申請書の提出まで準備が進められればと考えております。

Q NPO化によるメリットはなにか、またどのような義務が発生し、会の運営にどう影響するのですか

A メリットとしては、
① 契約の主体になれる
② 受託事業や補助金を受けやすい
③ 公的施設を利用しやすい
④ 組織基盤が整備されることにより社会的信用が高まる
⑤ 税制上の優遇措置が受けられる
などがあります。
また義務としては、法人の運営や活動について情報公開しなければならず、このため
① 事務量の増加(決算報告ほか各種届出、税金事務など)
② 経費の増加(事務所・備品等経費、専従者経費など)
③ 組織・経営問題の検討(組織の整備、会員の役割分担、収支の確保など)
などが生ずると考えられます。

Q 会の性格、会員の資格は変わるのですか

A 基本的には何も変わらないとご理解ください。当会はそもそも設立以来サロンの色彩が強し、泉氏を中心に幹事各位のボランティア精神により運営されてきました。この運営原則に変わりはなく、したがって、会とNPO法人とは同心円

の中にあると考えられます。当会会員の皆様にも、法人の社員(正会員など総会で議決権を有する者)になつていただき、法人活動について従来にもましてご協力いただければ幸いです。

Q 特定非営利活動法人の事業内容としてはどんなことを考えていますか

A 講演会・シンポジウム、映像の会、各種ツアー、勉強会、部会・サロンなどこれまでの活動のほか、セミナー、講師派遣、ビデオ映像製作、各種出版・広報などを考えています。

Q 法人化して経費が増加することになれば、会費は増額するのでしょうか

A 会費の増額より、可能な限り会員の増加を図ることで対応したいと思っております。

Q 今後のスケジュールはどうなりますか

A 十一月上旬に例会を開き、具体的な説明資料を用意した上で、会員各位と議論・検討の機会を持ちたいと思っております。ぜひご出席いただき、ご意見をいただきたいと存じます。

？NPOとは何か

最近耳にすることが多くなった「NPO」であるが、ここでの現状を整理しておく。

●NPOとは

NPO (nonprofit organization) は非営利の組織・団体のことであり、本来は社団法人、財団法人、社会福祉法人、協同組合や任意団体も含めた概念である。しかし、一九九八年三月に成立した特定非営利活動促進法がNPO法と略称で呼ばれているため、特定非営利活動法人(NPO法人)格を取得した団体のことを指すことが多くなった。

●NPO法人の数

内閣府のホームページでは、各所轄庁に認証された特定非営利活動法人数や認証申請数を公開しているが、六月三十日時点のNPO法人数は一万一千八百九十九である。また、「日本NPOセンター」(このセンターもNPO法人である)の検索データベースには六月二十日現在一万六千八百八十一の法人が掲載されていることから、何らかの活動を行っているNPO法人数は一万を超えているものと思われる。

●NPOの活動

特定非営利活動とは、左頁図表にある十二分野の活動で「不

今年の夏は仕事を離れて一ヶ月米国の東岸、ノースカロライナ州グリーンズボロに滞在する機会があった。百年前にライト兄弟がはじめて動力飛行機「フライヤーズ」を飛ばしたキティーホーク市の近くにある緑多い地方都市である。娘が二人目の出産があるというので手伝いに家内と出かけたのである。私の仕事は四歳の孫の面倒を見ることで、モンテッソリという私立の幼稚園の送り迎えと、夕方家の近くの小さな牧場にいる三頭の馬に孫と人參をやり散歩することぐらいだった。

日曜の朝は九時半に近くのメソヂイスト・チャーチに出かけた。孫は日曜学校があり、私は長老達の聖書研究会に入れてもらった。私を日本から来たメソヂイストの代表のように、ロイ・ボイヤード牧師以下教会員全員が温かく迎えてくれた。

三週目に呼んでくれた朝食会に七時半に教会に行くと、男性ばかりで持ち寄りのアメリカン・ブレイクファストだった。本音を話せる雰囲気だったので、私は京都府綾部市のNPOがイスラエルとパレスティナの中学生を七人づつ招き、平和(シャローム)を考える時を与えた話を紹介した。その上で私は、ブッシュ大統領も中東和平

のロウド・マップ作りに熱心だが、ほんとに実現するためにはもつとパレスティナにも公正でない駄目だと発言した。牧師達の反応は、実は中東和平こそ自分達が何年も祈っていることだと私の意見に賛成だと言った。ブッシュ大統領は南部メソヂイストだが、特権階級のWASPの一員なので少し原理主義的傾向のあるようだ。イラクへの攻撃前にメソデ

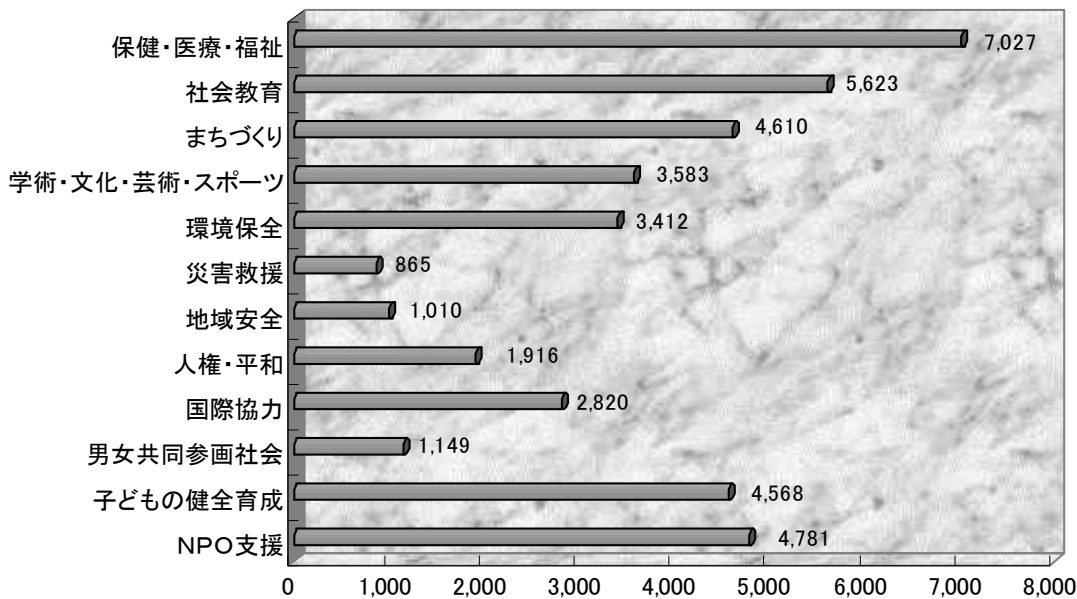
ブッシュ・シャローム・岩倉使節
米国を旅して

石川直義(会員)

イスト教会のリーダー達は止めるよう説得しようとしたが、ブッシュが会見を拒否したことは朝日新聞が報道していた。話はイラク戦争に展開したが、その教会の人々がブッシュに対してはつきり距離を置いていることを知った。来年の大統領選挙について民主党が有力な候補を出せば、ブッシュを破る可能性は相当あるように感じ

た。ワシントンにはグレイハウンドのバスで行ったが、隣の席に座った高校の歴史の先生(黒人女性)に岩倉使節の話をしたら興味を持ったので、コルカットさんたちが翻訳した「The Iwakura Embassy」を読むように薦めた。百三十年前の米国の様子をビビットに描写しており、米国人にも興味深い内容だと話した。ワシントンでは或るシンクタンクで持参していたビデオ「岩倉使節の世界一周米国編」を映そうとしたが、時間がなくなり断念した。そこで翌日私の泊まっていたホテルで二組の日本人家族にお見せした。一人はジョンホプキング大学院に留学している政治の研究でであり、もう一人はピッツバーグから来た三菱重工の技術者だった。彼等の印象を聞くと、大変好評で百三十年前の明治の人間が実に堂々としていたのに感心した。英語版を作った欧米人に見せて今日の問題を話すと交流を行うことは素晴らしいと激励を受けた。帰国後泉代表に報告したが、既存の英語版は何れ編集し直して作成したいとの話だった。期待したい。

図表 NPO法人の定款に記載された特定非営利活動の種類(複数回答)



*2003年6月30日までに認証を受けた11,899法人の定款から集計
(内閣府ホームページより)

特定かつ多数のものの利益の増進に寄与することを目的とするもの」をいう。最近「情報化社会の発展」など五分野が追加され、今後のNPO法人の活動分野は十七に拡大している。

内閣府の資料では定款に記載している分野が一個のみの法人は二千五百九十五(全体の十二%)で八割弱は複数の分野を記載し、全法人の平均記載分野数は三・五個である。

十一月十八・十九日

関西歴史ツアー続報

既案内の関西歴史ツアーの東京からの応募者のうち既に費用を払い込んでいる人は九月二十六日現在二十四名となった。これに関西支部のメンバーが加わるため、予定していたマイクロバスを四十五人乗りの大型に変更することになった。また、十九日十四時からの京都御所の見学許可や十八日宿泊の有馬温泉の旅館が「月光園」と決まるなどの進展があった。

十九日に予定している霊山歴史館の「坂本龍馬と岩倉具視展」は、岩倉具視没後百二十年の記念展として企画され、岩倉の意見書「叢裡鳴虫」や米欧回覧の際の家信集「萬里風信」(ともに重要文化財)などの展示がある。

詳しい行程はバスおよび史跡ガイドボランティア協会との打ち合わせを待つことになるが、固まりつつある概要は以下の通りである。

また人数に多少の余裕があるが、京都御所に確定人数を報告する都合もあり、参加希望の方は至急申込をお願いする。(問合せは事務局まで)

◆集合

十一月十八日(火) 正午
新大阪駅集合



「坂本龍馬と岩倉具視展」開催の
霊山歴史館(京都)

◆行程

十八日

新大阪→造幣局泉布観→適塾(福沢諭吉、長与専斎などが学んだ蘭学塾)→大阪城→西宮神社(六英堂)→六甲山→有馬温泉(月光園)

十九日

有馬→京都霊山歴史館(「坂本龍馬と岩倉具視展」)→二条・三条・四条の維新旧跡(昼食)→京都御所→二条城(バスから)→霊源寺(岩倉家菩提寺)→岩倉旧邸→京都駅

◆費用

三万五千元

(十九日のみ参加は六千円)

五月初旬、松前の桜の時期に

松前・函館・小樽・札幌

二〇〇四年歴史ツアー

合わせた「二〇〇四年春国内歴史の旅」として松前・函館・小樽・札幌等北海道道南

実記を読む会の現況

連絡 クラウンインターチェンジ

Tel 03-5469-2090 Fax 03-5469-2093

info@crown-interchange.com



■第六十四回例会報告

六月五日に開催。第十四巻および第十五巻「北部巡覧ノ記上・下」の中からブルードウエイ・セントラルパーク・運河を選んで読んだ。久米はブロードウェイの賑わいが印象的だったと見えて「世界ニ往来ノ混雑ナル、此街ノ如キハ其比ヲミス」と記している。セントラルパークについては、ニューヨーク市内に斯くも広大な公園を築造する米国人の構想の壮大さに驚いて「遙ニ向岸ナル林丘ヲ望メハ、清風ヲ籠メテ藹如ナリ、深山幽谷カト疑ハシム」と述べている。

■第六十六回例会報告

八月は「夏休み」ということで、九月四日に開催。第十巻「北部巡覧ノ記 下」の中からポストンなどを取り上げて読んだ。一行が米国滞在中に最後に訪ねた大都市ボストンでは、南北戦争の終結に続いて欧州での普仏戦争も終わり、世界に平和が到来したのを祝って大音楽祭が開催された。会場となる「大観場」は「五万人ヲ容テ尚余地アリ」と久米が記しているが如何に壮大な会場であるかが推定される。欧州からは預備シユトラウスが楽団を率いて登場し、ワルツを演奏したのは注目に値する。

★若い会員の方々へ

回覧実記に関心あるけど漢字とカナで書かれた文章を読

むのはニ・ガ・テという若い会員の方々いませんか。心配はご無用。ノンフィクション作家の水澤周先生(会員)が毎回出席されて、久米の難解な文章を分かりやすく流れるような素晴らしい現代語に訳してくれます。(分らないのに分ったふりをしてる私もホッと安心することがあります。)

(文) 正木孝虎会員

英訳実記を読む会の現況

連絡 岩崎洋三

Tel & Fax 03-3488-0532

zaa96087@oak.zero.ad.jp



●苦勞と発見

『英訳実記』を読む会は、九月までに既に八回終了した。やり方としては、分担して英文を音読し、感想を述べ、関連資料を調査紹介したり、英訳本の注記を翻

訳したり、難しい漢語の英語表現に感心したり、誤訳でないかと疑ってみたり、自由に意見交換するような形で進んでいる。平易な表現の英文をただ読み下すだけなら、久米の漢文調の難解な原文を読むよりまだ楽かも知れない。しかしこの種の翻訳文を厳格に読もうとすると、場合によっては原文に遡ってその正確な理解が必要

の旅(五月七日羽田出発ベイス)を案内したところ一泊参加者九名、三泊参加者二十一名の申し込みがあった。他に十四名が考慮中で、これを合わせるに松前の旅館の制約による四十名の定員を上回っている。考慮中の方は事務局が担当(山田、石川)に十月十日までに連絡してください。

また、札幌ではビデオ版「岩倉使節の米欧回覧」上映と講演の会を企画中であり、決定次第お知らせします。

ビデオ版「岩倉使節の米欧回覧」全三巻完成

この度、懸案のビデオ版「岩倉使節の米欧回覧」全三巻が完成した。スライドの原画をもとにしながらもビデオの特長を生かした編集により、岩倉使節の旅が一層イキイキと表現されている。

制作を終えた足立光正会員に聞くと、

『編集作業で一番時間をかけたのは、画面の見苦しい部分を一枚一枚修正する作業でした。スライドでは許容されていた、本の見開き頁を撮影した画面の真ん中の影や、色調の不自然さ、画面の汚れなどが、ビデオでは邪魔になって見るに耐えないからです。この修正に、フォトショップと



2003年5月6日の松前城と桜
(松前市ホームページより)

国際交流部会(山田・浅沼)
世話人(松前・石川)

いう画像ソフトを使ってコマ当たり平均一時間ほどかけています。』

とその苦勞を語った。

従来のスライド版はトレーの關係で一卷八十コマという制約に縛られていた。ビデオにはその制限がないために各巻とも二、三十コマ、新しい画面を追加することができ、内容に奥行きを感じる出来となっていた。そのうえ、音声も聞き易く補正をしてある。

一卷三十分、二巻で九十分と扱いやすく見やすくなったビデオ版「岩倉使節の米欧回覧」を、スライド版をご覧になった方にも、改めて楽しんで頂きたい。

になり、原文ではついつい読み飛ばし勝ちな曖昧な漢語の意味まで調べることになる。そのため座右には久米の原本、英訳本、英和辞典、漢和辞典と四冊並べて見比べる作業を強いられる。担当になると予習は大変であるが勉強になる。

また英語となるとやはり逐語的に丁寧に読むので、原文と翻訳文の間の細かい違いや、語彙の明らかな取り違えや、読んで筋が通らない、理屈から言っておかしいと思うところに目が行くことになる。また久米自身の記述の中にも数字の不適切さ、地図の方向の間違いなど、既に原本の注や、また『英訳実記』の注で指摘訂正されているところもあるが、新しい発見もある。

●『英訳実記』の優れた点

優れた点は多くのカタカナ表記の人名、地名などの固有名詞が同定され、正しいスペルで綴られていることである。これによって原文の理解も助けられる。また原本にない注記が新たに追加されて、久米の記述の出版や当時の背景の理解が深まることも、有り難い。

また久米の書く漢語の美辞麗句がどういった英語で表現されているのかも興味尽きない点である。風景描写など苦心の名訳だなと感心することもありますが、久米の名文も翻訳すると意

外に平凡な表現になっているのを見てがっかりすることもある。一方では平易な英語のお陰で却って原文より意味が理解し易かったりする。訳が忠実過ぎて説明を加えたようでは、却って回りくどく、分かりにくい作業であり、自然な言語表現にするために意識されるのも当然である。また意識的に訳さないこともあるし、欠落個所が見つかるのも翻訳ではごく自然なことではある。

●英訳実記の意義

『英訳実記』は大変な労作であり、固より日本語で書かれた『実記』の内容を広く世界の人に読んで理解してもらいたいものでもあり、英文を読む場合に重箱の隅を突つくとような読み方では意味がないと思う。この本が完成品でなく、これがベースとなって漸次翻訳が完全になることを監修者も願っているし、細かい議論もそのための一つのプロセスであろう。英訳されて『実記』が世界で広く読まれる道が開けたのは何と云っても意義深い。今後この本が外国の人達にどう読まれるかを知るのも面白いテーマである。

関心のある方々はぜひご参加下さい。

(文) 小林養文会員

●例会報告

出席十二名。始めに、関西歴史ツアーについて報告。今回遂に最後の「帰国日程」に入る。

『実記』はレセプスの苦勞を詳しく書いており、百科辞典のコピーを配って実記の記述と比べてもらう。最後に、広い広い揚子江を実見して日本へ帰る。一年半以上も離れていた日本を見ての感動があったと思うが、淡々と書いているのはこの本が個人の旅行記ではなく、公の『米欧回覧実記』であるためか。

この「帰国日程」についての西川先生の話聞く。田中彰氏は維新政府の「ヨーロッパ文明信仰」、福沢諭吉式の「脱亜入欧」思想の端緒をここで見ているが、むしろ世話になった諸国へも送る公式報告としては、西欧諸国の植民地政策に批判的な口調だと見られるのが西川先生。

今回で『実記』を読むのは一応終わり、今後どうするかは、十一月東京から泉さん達も見えるのでそこでも相談してという事で散会。

(文) 山崎岳磨会員

関西支部の現況
連絡 山崎 岳磨
Tel&Fax 06-6853-3137
takechan@tcct.zaq.ne.jp

●例会報告

出席十二名。始めに、関西歴史ツアーについて報告。今回遂に最後の「帰国日程」に入る。

『実記』はレセプスの苦勞を詳しく書いており、百科辞典のコピーを配って実記の記述と比べてもらう。最後に、広い広い揚子江を実見して日本へ帰る。一年半以上も離れていた日本を見ての感動があったと思うが、淡々と書いているのはこの本が個人の旅行記ではなく、公の『米欧回覧実記』であるためか。

この「帰国日程」についての西川先生の話聞く。田中彰氏は維新政府の「ヨーロッパ文明信仰」、福沢諭吉式の「脱亜入欧」思想の端緒をここで見ているが、むしろ世話になった諸国へも送る公式報告としては、西欧諸国の植民地政策に批判的な口調だと見られるのが西川先生。

今回で『実記』を読むのは一応終わり、今後どうするかは、十一月東京から泉さん達も見えるのでそこでも相談してという事で散会。

(文) 山崎岳磨会員

「米欧回覧の会」ご案内

趣旨 この会は「岩倉使節団」に興味をもち、その記録である「米欧回覧実記」に関心を抱く人々の集まりです。
この大いなる旅と「実記」はまさに「温故知新」の宝庫と言えましょう。
この素材を媒体にして歴史をふりかえり現代の直面する諸問題についても自由に語りあおうという会です。

会員 上の趣旨に賛同する人なら誰でも入会できます。

例会 年に4回くらい全体例会をもちます。

分科会 テーマ別にグループ活動をします。映像サロン・勉強会・旅行会・研究会・シンポジウムなど。

機関紙 年に4回程度機関紙を発行し活動報告や会員の意見発表、情報交換の媒体とします。

幹事 会員の中から、代表1名、幹事十数名を選び、運営を担当します。

会費 年会費5,000円とし、主として通信費及び機関紙代に充当します。例会・分科会・講演会などについては、その都度の会費とします。

事務局 当面「イズミ・オフィス」に置きます。
〒192-0063 八王子市元横山町1-14-16
E-mail:info@iwakura-mission.gr.jp
TEL:0426-46-3310
FAX:0426-45-8700

入会申込

氏名・連絡先(自宅或いは勤務先の住所・TEL・FAX)現職&キャリアを事務局までFAXまたは郵便でお送りください。なお年会費は郵便振込が便利です。

00180-2-580729 米欧回覧の会

<催し案内>

2003年9月～11月の予定です

☆日米交流150周年記念シンポジウム

日時：10月25日(土) 13:00～17:00

場所：日本プレスセンター10階ホール

*首相会見などプレスセンターの事情により会場が変更される可能性があります。変更の場合は10月中旬までに別途お知らせします。

講師：ドナルド・キーン氏&松本健一氏

司会：泉三郎氏

テーマ：アメリカングローバリゼーションと日本の

アイデンティティ

☆11月全体例会

日時：11月8日(土) 13:00～17:00

場所：国際文化会館ホール

テーマ：NPO化問題を考える

また、完成したビデオ版「岩倉使節の米欧回覧」(3巻合計90分)を上映します

☆実記を読む会

日時：10月2日(木) 貨幣について

11月6日(木) バイブルについて

場所：南青山クラウンインターチェンジ内サロン

電話 03-5469-2090

☆英訳実記を読む会

日時：10月16日(木) 18:30～21:00

11月20日(木) 18:30～21:00

場所：国際文化会館 セミナー室

会費：1000円(食事・飲物はできません)

世話人 岩崎洋三 zaa96087@oak.zero.ad.jp

☆関西歴史ツアー

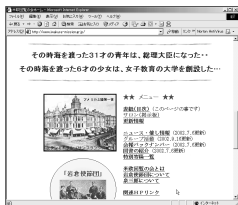
日時：11月18日(火)～19日(水)

.....ホームページのご案内.....

- ◇米欧回覧ニュース第1号からのバックナンバー
- ◇会の催し・部会活動の速報
- ◇<群像>岩倉使節団とその周辺(パネル30枚)
- ◇インターネットサロン(会議室) など

*皆様のご意見をお聞かせ下さい
(ホームページ編集に関心のある方歓迎します)

<http://www.iwakura-mission.jp>



編集後記

◇二〇〇一年の国際シンポジウムの際の幹事会で浮上した当会のNPO法人化が再び提起され、いよいよ前向きに具体化を検討する段階になります。

会員の自主的活動やボランティア精神など個人の熱意が基礎であることは従来と変わりませんが、NPO化は社会的な役割を意識した組織全体の問題が明らかになります。全会員が四、五頁の特集記事を読んだ上で十一月全体例会に参加し、十周年を控えた当会の将来を話し合いました。

◇既に二巡目に入っている「実記を読む会」に引き続き、この度、関西支部の例会でも『米欧回覧実記』が「横浜二着船ス」となりました。また、十一月に計画されている関西支部・事務局共催の歴史ツアーには大勢の東京の会員の応募があり、大いなる交流・交歓の場となると期待されます。今年、関西支部にとって大きな区切りの年となります。

長年世話役を務めた山崎さんをはじめ、熱心で楽しい会合をここまで維持された関西支部の皆様にご意を表します。